

目次

はじめに…………… i

I 国防軍潔白論の生成

——米軍「Historical Division」企画との関連において——…………… 3

問題…………… 5

一 米占領軍によるOHPの発足…………… 8

- (一) 米占領軍「作戦史ドイツ班(OHS)」成立をめぐる事情…………… 8
- (二) ドイツ軍捕虜の対応と協力…………… 12
- (三) OHPでの元ドイツ軍人達の活動…………… 17

(四) OHP作業での大戦史叙述の内容	21
二 国防軍潔白論の公的認知	25
(一) アイゼンハワーとアデナウアーによる国防軍潔白証明	28
(二) 元軍人の復権にともなう現象	32
まとめと今後の問題	35
II 冷戦の前衛としての東西両ドイツ史学	45
はじめに	47
一 西ドイツ史学の出発点——一九五〇年代前半の状況	49
二 西ドイツでの元軍人による大戦史叙述の性格	51
三 西ドイツでの元軍人の著作公表の背景	54

四	元参謀將校出身の軍事史家の影響……………	57
五	西ドイツ史学の問題点……………	64
六	東ドイツ史学の性格と弱点……………	66
七	東ドイツ史学の意義……………	71
結	論——互いの負の遺産の整理の時……………	73
III	国防軍免責の原点？	
	——ニュルンベルク裁判…「將軍供述書」の成立をめぐる……	81
一	問題…ニュルンベルク裁判で裁かれたもの……………	83
二	「將軍供述書」成立をめぐる事情……………	88

三 「將軍供述書」の内容……………	93
四 「將軍供述書」に関する問題点と今後の展望……………	108
IV 戦犯訴追と冷戦	
——一九四九年マンシュタイン裁判をめぐる問題——……………	121
はじめに……………	123
一 マンシュタインの略歴……………	125
二 マンシュタイン訴追の発端……………	127
三 イギリス側の対応……………	129
四 一九四八年におけるイギリス側の論議……………	133

五	イギリス政府の態度決定	137
六	マンシュタイン裁判の開始	139
七	マンシュタイン裁判での訴因と弁護側の反論	141
八	結審と判決	148
	結論——何が明らかになったか——	151
V	「ヒンメロート意見書」	
	——西ドイツ再軍備のための軍事専門家委員会による提言——	159
	解説	161
	資料 一九五〇年十月九日付け 西ヨーロッパ防衛のための超国家的軍隊の枠内 でのドイツ兵力分担(DK)の編成に関する軍事専門家委員会の意見書	165

	(一)	軍事政策上の基礎と前提	165
	(ア)	西側諸国について	167
	(イ)	西ドイツ政府のための提言	169
	(二)	連邦共和国の作戦的状况についての基本的考察	170
	(ア)	ヨーロッパ地域でのソヴィエトの軍事的優勢	170
	(イ)	西欧防衛にとつての作戦的諸条件	172
	(ウ)	防衛の実際上の遂行可能性	176
	(三)	ドイツ兵力分担(DK)の編成(略)	178
	(四)	訓練(略)	178
	(五)	内部構造	178
	(ア)	序言	178
	(イ)	政治面	179
	(ウ)	倫理面	180
	(エ)	教育面	182
	(オ)	国民と反対派への働きかけ	183
	(カ)	立法作業	183
	(キ)	即時着手措置	184
結	語		185

(ア)	準備	185
(イ)	法制化	186
(ウ)	心理上の諸前提	187

VI	書評	189
----	----	-----

一	清潔な国防軍の神話の生成と克服	191
---	-----------------	-----

二	Gerd R. Ueberschar/Winfried Vogel, <i>Dienen und Verdienen: Hitlers Geschenke an seine Eliten</i>	213
---	--	-----

	おわりに	225
--	------	-----

	索引	232
--	----	-----

	人名索引	232
	事項索引	229

